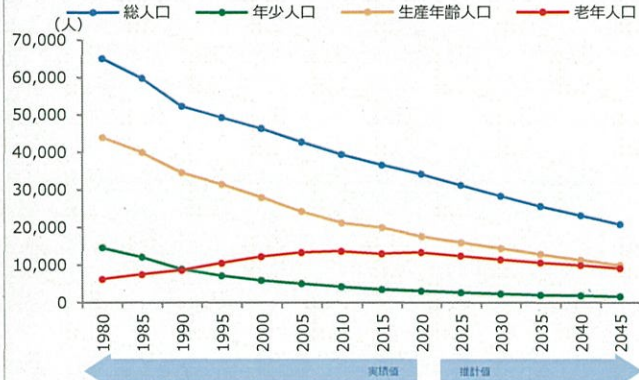


①人口推移

人口マップ>人口構成 → 「人口推移」

- ・総人口と年齢3区分別人口の推移を示しています。
- ・「総人口のピーク」「老年人口の増加傾向」等、自地域の人口変化の概要を把握できます。

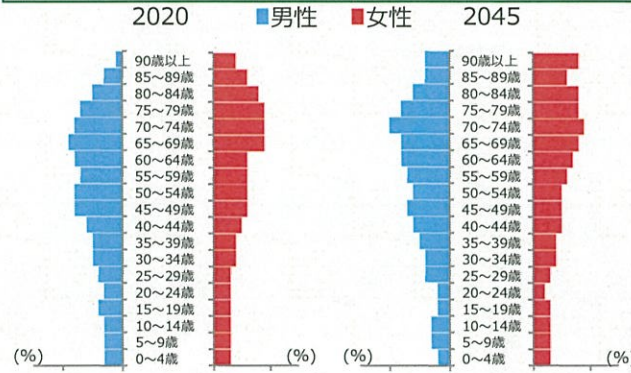


【出典】 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
 【注記】 2020年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月公表）に基づき推計値。

②人口ピラミッド

人口マップ>人口構成 → 「人口ピラミッド」

- ・男女別・5歳階級別にピラミッドで表示しています。
- ・将来の高齢者層の大きさ、生産年齢人口の減少等も視覚的に把握することができます。

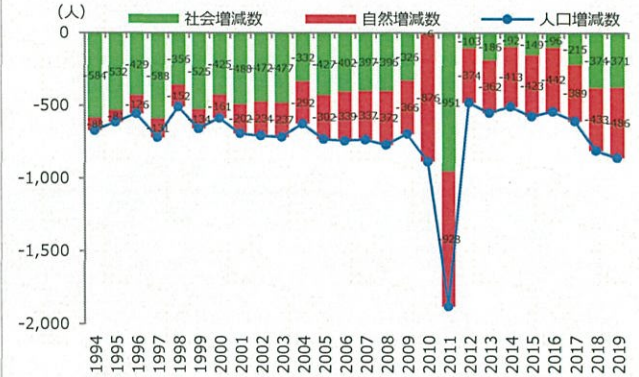


【出典】 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
 【注記】 2020年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月公表）に基づき推計値。

③自然増減・社会増減の推移

人口マップ>人口増減 → 「グラフを表示」

- ・現在までの人口推移に「出生・死亡による自然増減」「転入・転出による社会増減」の2つの要因が与えた影響を確認できます。



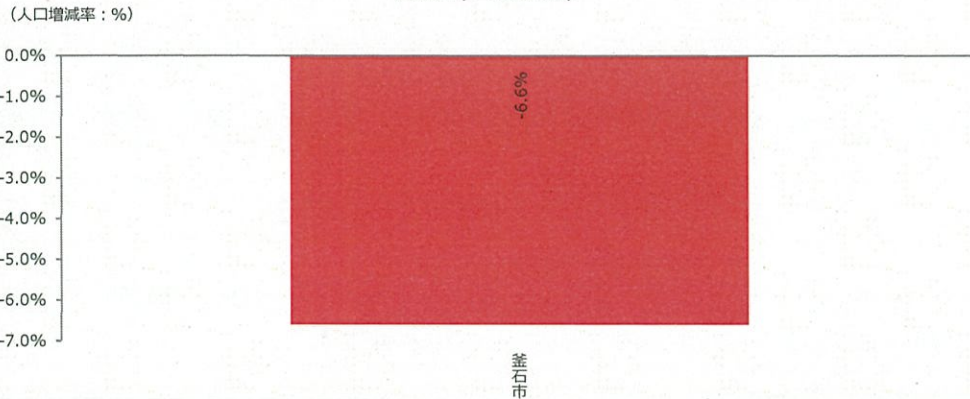
【出典】 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」再編加工
 【注記】 2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む数字。

④人口増減率の比較

人口マップ>人口増減 → (ダウンロードデータより作成)

- ・人口増減率について、自地域の水準を把握することができます。
- ・人口増減の状況について、他地域（最大30地域）との比較により、自地域の立ち位置を確認できます。

2015年→2020年



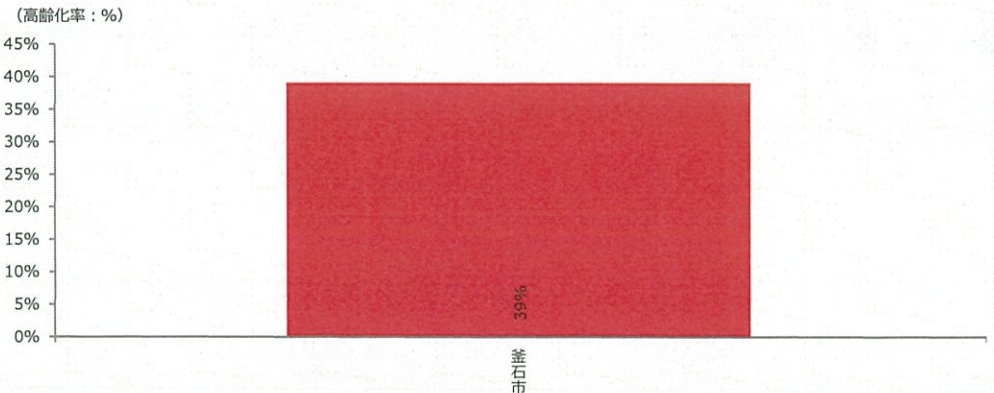
【出典】 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

⑤高齢化率の比較

人口マップ>人口構成 → (ダウンロードデータより作成)

- ・高齢化率について、自地域の水準を把握することができます。
- ・高齢化の状況について、他地域（最大30地域）との比較により、自地域の立ち位置を確認できます。

2020年



【出典】 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

①企業数・事業所数・従業者数の推移

産業構造マップ>全産業>企業数・事業所数・従業者数(事業所単位) → 「グラフを表示」

・地域産業全体の推移を、企業数、事業所数、従業者数の推移により概観します。

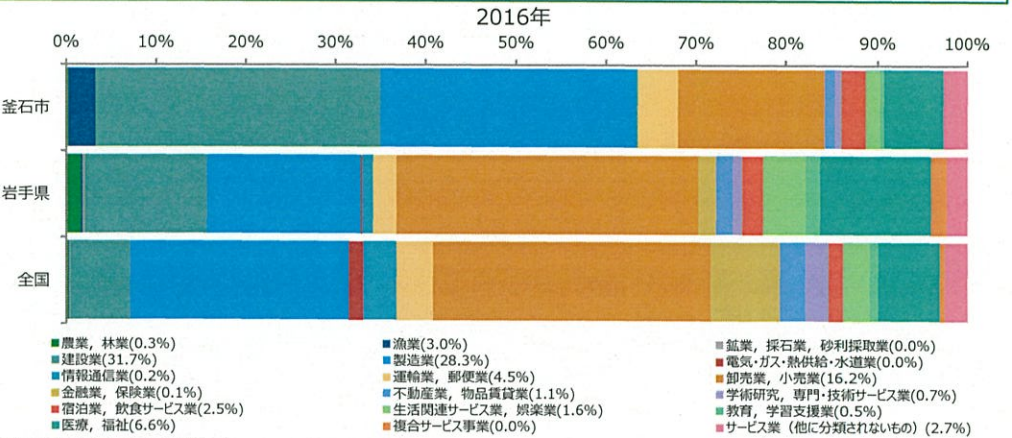


【出典】 総務省「経済センサス-基礎調査」、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工
 【注記】 企業数については、会社数と個人事業所を合算した数値。従業者数は事業所単位の数値。

②産業大分類別に見た売上高(企業単位)の構成比

産業構造マップ>全産業>全産業の構造 → 「横棒グラフで割合を見る」

・売上高(企業単位)について、産業大分類別の構成比を他地域と比較します。
 ・自地域において構成比の大きな産業、他地域と比較して構成比の小さな産業等、産業の特徴を概観できます。

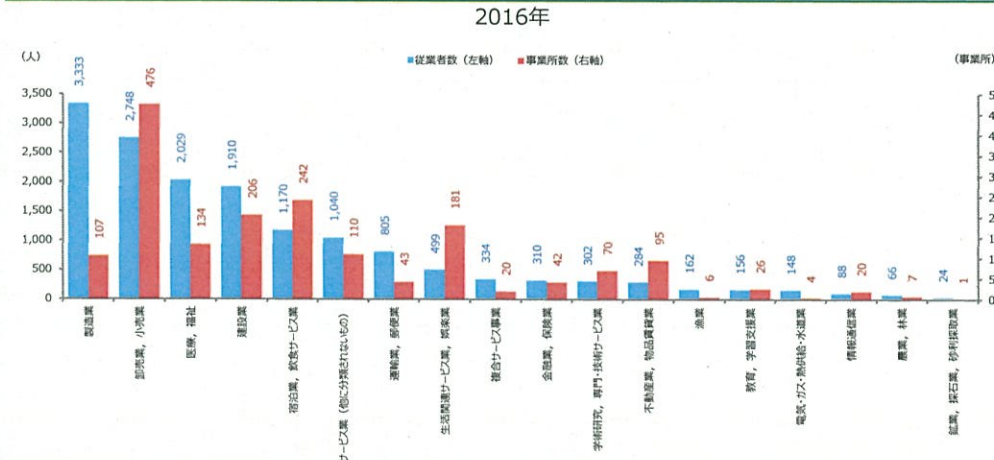


【出典】 総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工
 【注記】 凡例の数値は選択地域の数値を指す。

③産業大分類別に見た従業者数(事業所単位)と事業所数

産業構造マップ>全産業>(事業所数・従業者数(事業所単位)) → (ダウンロードデータより作成)

・自地域の主要産業を産業大分類別の従業者数(事業所単位)および事業所数の観点から概観します。

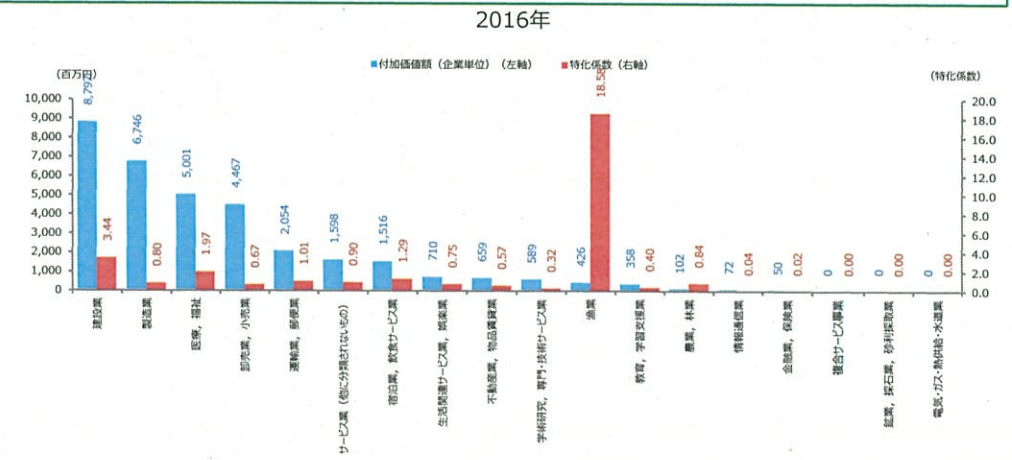


【出典】 総務省「経済センサス-基礎調査」、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工

④産業大分類別に見た付加価値額(企業単位)

産業構造マップ>全産業>全産業の構造 → (ダウンロードデータより作成)

・付加価値額の面から、自地域において稼働力の大きな産業を概観します。
 ・特化係数が1より大きな産業は、全国傾向よりも構成比が大きくなっており、特徴的な産業と言えます。

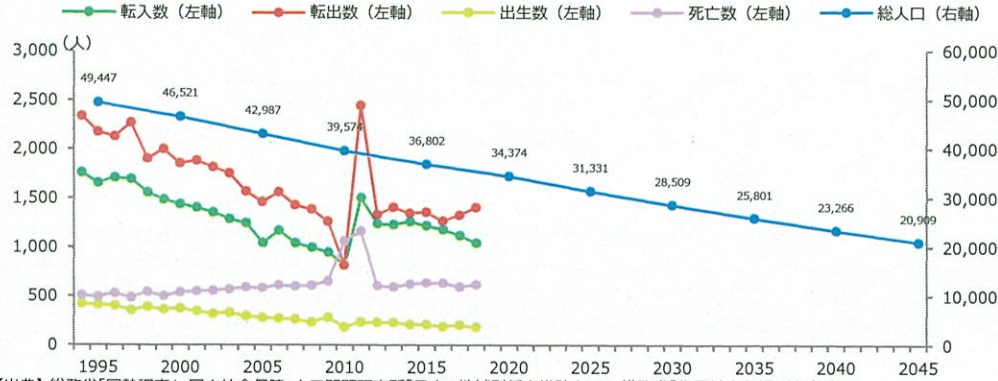


【出典】 総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工

① 出生数・死亡数 / 転入数・転出数

人口マップ>人口増減 → 「グラフを表示」

・総人口の増減要因である、出生数・死亡数、転入数・転出数の推移を示しています。
 ・出生数と死亡数の推移から自然増減への対策、転出数・転入数の推移から社会増減への対策等、人口増減に対する政策検討の方向性を検討する基礎的な材料となります。



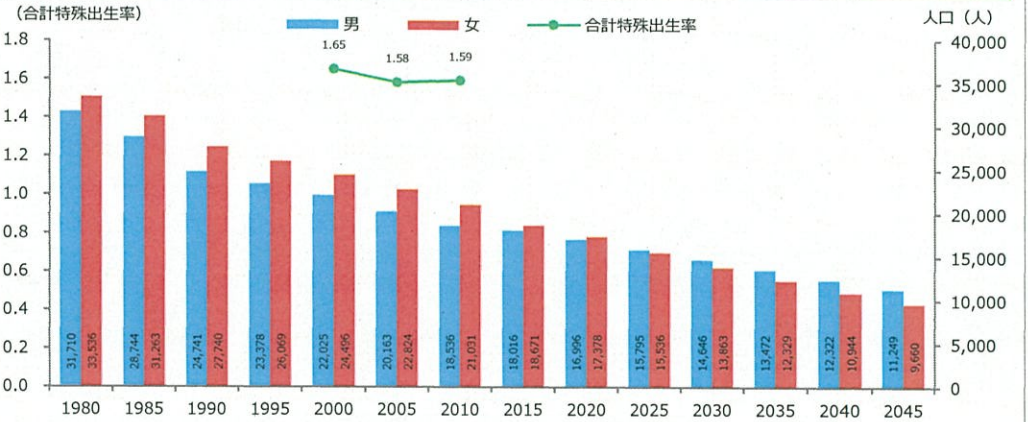
【出典】 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

【注記】 2015年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2020年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月公表）に基づく推計値。

② 男女別人口・合計特殊出生率の推移

人口マップ>人口の自然増減 → 「合計特殊出生率と人口推移」

・男女別の人口推移と合計特殊出生率を示しています。
 ・合計特殊出生率は自然増減（出生数）に直結する指標であり、低下傾向にある場合には、婚姻率の向上、女性の地元定住促進、子育て支援等、政策面での対応が必要と考えられます。



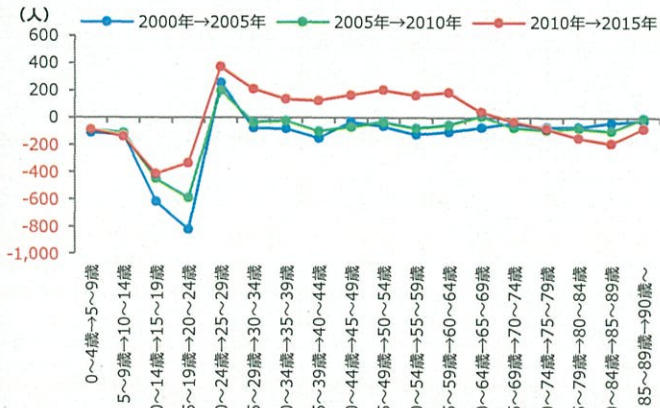
【出典】 総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

【注記】 2015年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2020年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月公表）に基づく推計値。

③ 年齢階級別純移動数の時系列推移

人口マップ>人口の社会増減 → 「人口移動（グラフ分析）」

・社会増減の状況を年齢階級別に示しています。
 ・自地域の労働力に大きな影響を与える生産年齢層の社会移動の経年変化等を把握できます。



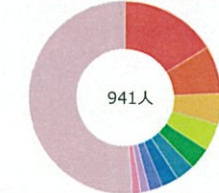
【出典】 総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

④ 転入数・転出数の上位地域

人口マップ>人口の社会増減 → 「From-to（定住人口）」

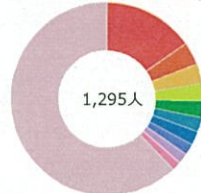
・直近時点転入数・転出数の多い地域を示しています。
 ・自地域が吸引力を有している地域、流出抑制を検討すべき地域等を把握できます。

転入数内訳（2019年）



- 1位 岩手県盛岡市 (152人)
- 2位 岩手県大槌町 (76人)
- 3位 岩手県大船渡市 (49人)
- 4位 岩手県宮古市 (44人)
- 5位 岩手県花巻市 (35人)
- 6位 岩手県遠野市 (29人)
- 7位 岩手県北上市 (26人)
- 8位 岩手県奥州市 (21人)
- 9位 宮城県仙台市青葉区 (14人)
- 10位 岩手県滝沢市 (13人)
- その他 (482人)

転出数内訳（2019年）



- 1位 岩手県盛岡市 (197人)
- 2位 岩手県北上市 (50人)
- 3位 岩手県花巻市 (43人)
- 4位 岩手県奥州市 (38人)
- 5位 岩手県宮古市 (36人)
- 6位 岩手県滝沢市 (31人)
- 7位 宮城県仙台市青葉区 (30人)
- 8位 青森県八戸市 (24人)
- 9位 岩手県一関市 (23人)
- 10位 岩手県滝沢市 (19人)
- その他 (804人)

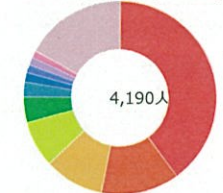
【出典】 総務省「住民基本台帳人口移動報告」

⑤ 流入者数・流出者数の上位地域

まちづくりマップ>通勤通学人口 → 「地域間流動をグラフで見る」

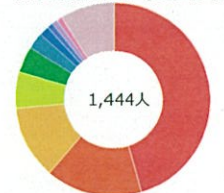
・直近時点流入数・流出数の多い地域を示しています。
 ・自地域が吸引力を有している地域、流出抑制を検討すべき地域等を把握できます。

流入者数内訳（2015年）



- 1位 岩手県大槌町 (1,673人)
- 2位 岩手県遠野市 (549人)
- 3位 岩手県山田町 (416人)
- 4位 岩手県大船渡市 (324人)
- 5位 岩手県盛岡市 (182人)
- 6位 岩手県宮古市 (103人)
- 7位 岩手県北上市 (68人)
- 8位 岩手県陸前高田市 (56人)
- 9位 岩手県花巻市 (55人)
- 10位 岩手県住田町 (52人)
- その他 (712人)

流出者数内訳（2015年）



- 1位 岩手県大槌町 (655人)
- 2位 岩手県遠野市 (229人)
- 3位 岩手県大船渡市 (176人)
- 4位 岩手県山田町 (88人)
- 5位 岩手県宮古市 (63人)
- 6位 岩手県盛岡市 (40人)
- 7位 岩手県北上市 (24人)
- 8位 岩手県花巻市 (14人)
- 9位 宮城県仙台市 (14人)
- 10位 宮城県仙台市 (13人)
- その他 (128人)

【出典】 総務省「国勢調査」